

# 大分県立武道スポーツセンター

(昭和電工武道スポーツセンター)



## ◆ 大分県立武道スポーツセンターの整備理念 ◆

トップリーグ公式戦や県内外の各種競技大会など大規模大会の開催が可能な武道をはじめとする屋内スポーツの拠点として、県民の誰もが気軽に利用できる施設とし、各国代表の合宿などスポーツ観光の拠点や大規模災害に備えた広域防災拠点の中核施設としても利用できる。

### <多目的競技場>



観客収容数：約5,000人  
(固定席2,028席、可動席2,016席、  
車イス席20席、パイプ椅子席1,000席)

フロア面積：約3,810㎡  
81m×40m+フリースペース

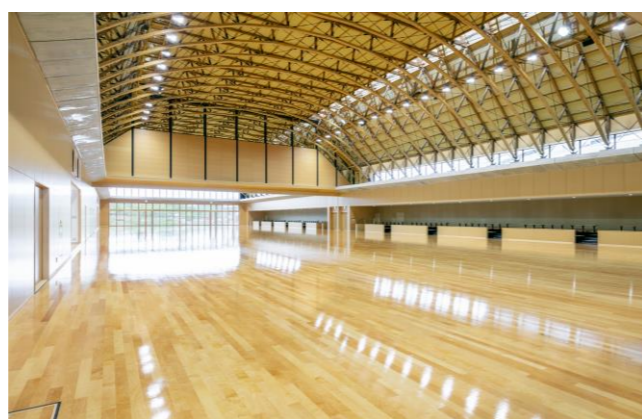
有効天井高：12.5m(中央部19m)

梁間距離：約70m

最高照度：1,500lx

競技面数：剣道・柔道・空手道等の公式試合場8面、  
バスケットボール4面、バドミントン16面、  
ハンドボール2面 など

### <武道場>



観客収容数：約400人  
(固定席402席、車イス席6席)

フロア面積：約2,390㎡  
(横：約33m×縦：約24m)×3道場

有効天井高：6.9m(中央部11m)

梁間距離：約26m

最高照度：1,000lx

競技面数：剣道・柔道・空手道等の公式試合場  
2面×3道場

## ◆ 施設の概要 ◆

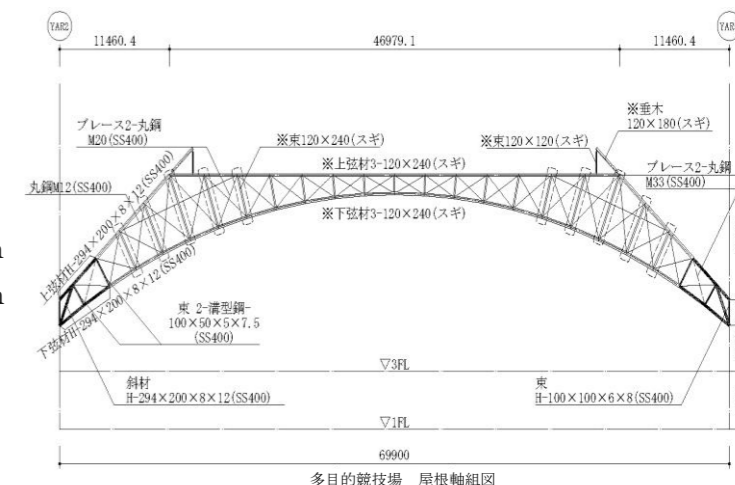
- (1) 建築面積：14,551.68㎡
- (2) 延床面積：16,125.56㎡
- (3) 構造：鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造、木造
- (4) 階数：地上3階 地下1階
- (5) 主要室：多目的競技場、武道場、  
トレーニングルーム(救護室、キッズルーム併設)、  
大会議室(1室)、小会議室(2室)
- (6) 事業費：約79億6千万円
- (7) 設計者：株式会社 石本建築事務所
- (8) 監理者：株式会社 石本建築事務所
- (9) 施工者：【建築工事】フジタ・末宗組特定建設工事共同企業体  
【電気工事】九電工・大和特定建設工事共同企業体  
【空調工事】東熱・柳井建設工事共同企業体  
【給排水工事】九電工・扶桑特定建設工事共同企業体
- (10) 木材使用量：985㎡(構造材972㎡、内装材13㎡) ※一般住宅41棟分に相当



書：臨濟宗相国寺 有馬頼底 氏

## ◆ 屋根構造 ◆

- 上弦材：杉120mm×240mm  
下弦材：杉120mm×240mm  
束材：杉120mm×240mm、120mm×120mm  
多目的競技場：トラススパン(支点間距離)69.9m  
武道場：トラススパン(支点間距離)25.6m

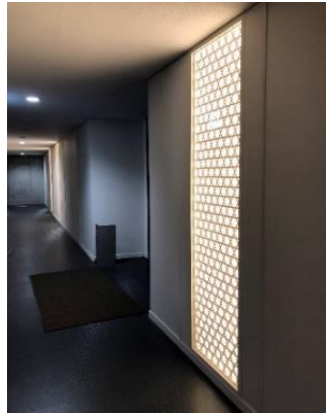




◆ 県産材・県産品活用状況 ◆

(1) 竹工芸品

古くから県内に伝わる別府竹細工の伝統と技法等を活用し、エントランス天井（簀虫籠（すむしこ））、スクリーン（丸竹）、壁（丸竹）、館内廊下の照明カバー（六ツ目網他）を配置。



① 竹細工照明カバー  
18箇所 計34m<sup>2</sup>



② 竹スクリーン（壁装飾）600m<sup>2</sup>



③ 竹ルーバー  
（天井装飾）1300m<sup>2</sup>

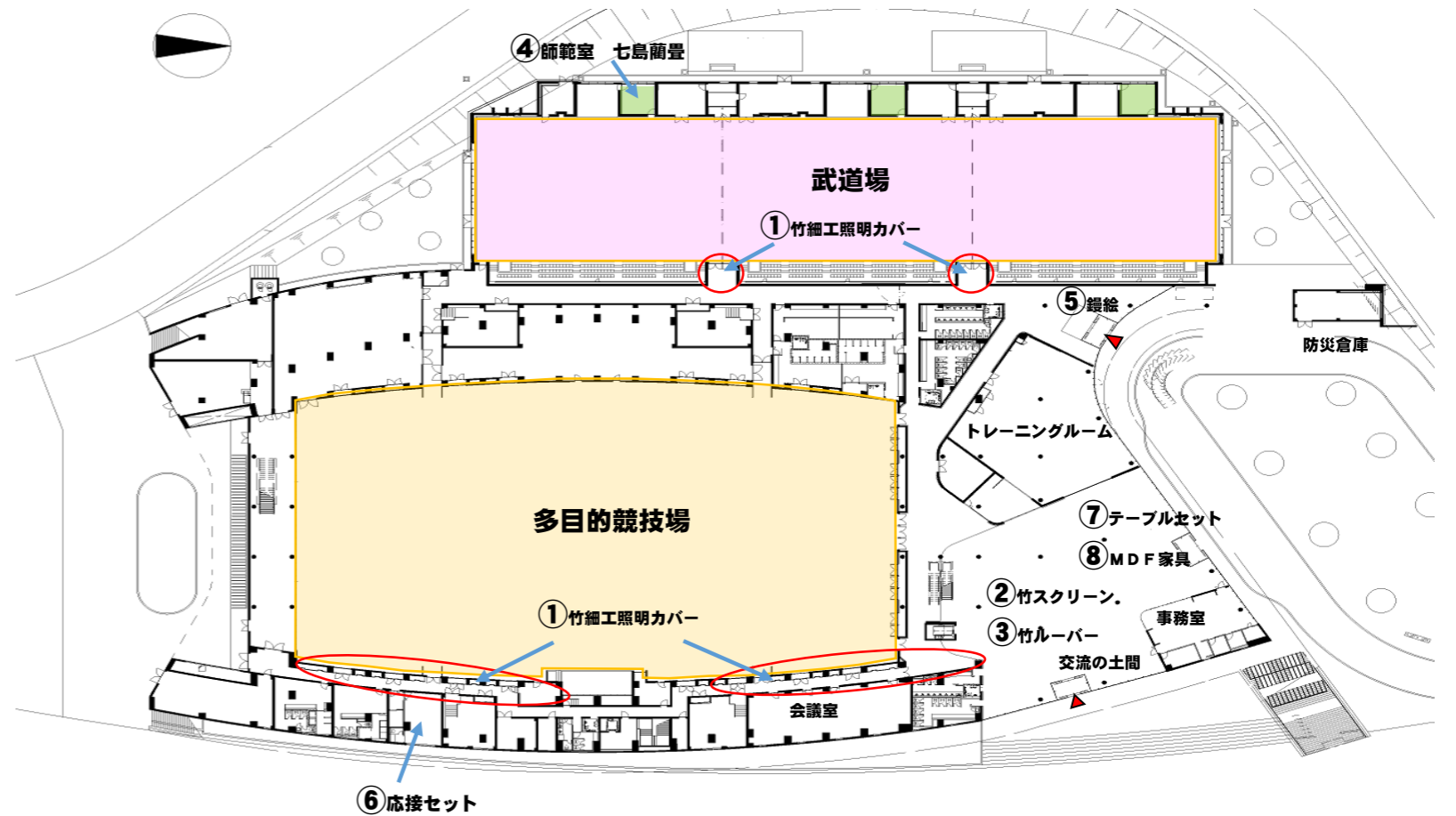
(2) 七島藺（しちとうい）

世界農業遺産に登録されている『国東半島宇佐地域』で、江戸時代から栽培されている七島藺（※）を使った畳を武道場の師範室や施設内のベンチに使用。



④ 師範室 七島藺畳（40m<sup>2</sup>）

※ 七島藺とは・・・  
カヤツリグサ科の植物で、イ草と異なり断面が三角の形をしている。強度はイ草の5～6倍あるとされており、収穫時には背丈が約180cmほどまで成長する。



(3) 鰻絵（こてえ）

江戸時代中期から始まったとされ、現在も、県内の宇佐市安心院地域に数多く残されている、左官職人が漆喰（しっくい）を使って家や土蔵の壁などに浮き彫りにして絵を描いたもの。

今回は、武道をモチーフにした鰻絵を武道場エントランス壁面に設置。



⑤ 鰻絵（武道場ホール）



(4) 日田家具

脚ものの家具の全国的産地である日田（日田家具工業会）で制作した家具。杉の質感を活かしたボリュームあるデザインは本施設の設計者によるもの。



⑥ 応接セット（貴賓室）



⑦ テーブルセット（交流の土間）

(5) MDF家具

段ボール細工で有名なアキ工作舎（現：国東時間）で制作した家具。家具は初めての取り組みとこのことであったが、時間をかけて打ち合わせし実現したもの。段ボール細工と同様に、MDF板（※）をレーザーカットし組み立てる工法。同社とベンチ座面の七島藺を担当したくにさき七島藺振興会は事務所が隣同士で、協働しやすい環境であった。デザインは本施設の設計者によるもの。



※ MDF板とは・・・  
中質繊維板（メディアム・デンシティ・ファイバーボード）のこと。木材チップを蒸気で加熱し繊維をほぐした後、合成樹脂を加えて成形する。

⑧ MDF家具  
+ 七島藺  
（交流の土間）



# 大分県立芸術文化短期大学

## 〔音楽ホール棟〕

- 主な整備内容
  - ・音楽ホール棟は300名を収容できる音楽ホールや音楽情報演習室等の教育機能に加え、学生の憩いの場となる厚生施設（レストランや売店）をあわせて整備
- 地域材使用量 137m



音楽ホール棟 外観

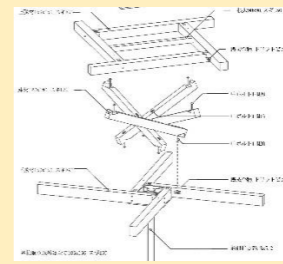


音楽ホール棟 エントランスホール

高い音響レベルを目的に立体的に組み合わせた木製の壁面



“浮雲”をイメージし、杉製材（150mm x 150mm）を組み合わせた木造立体トラスは、キャンパス内のいたるところに配置



## 〔芸術デザイン棟〕

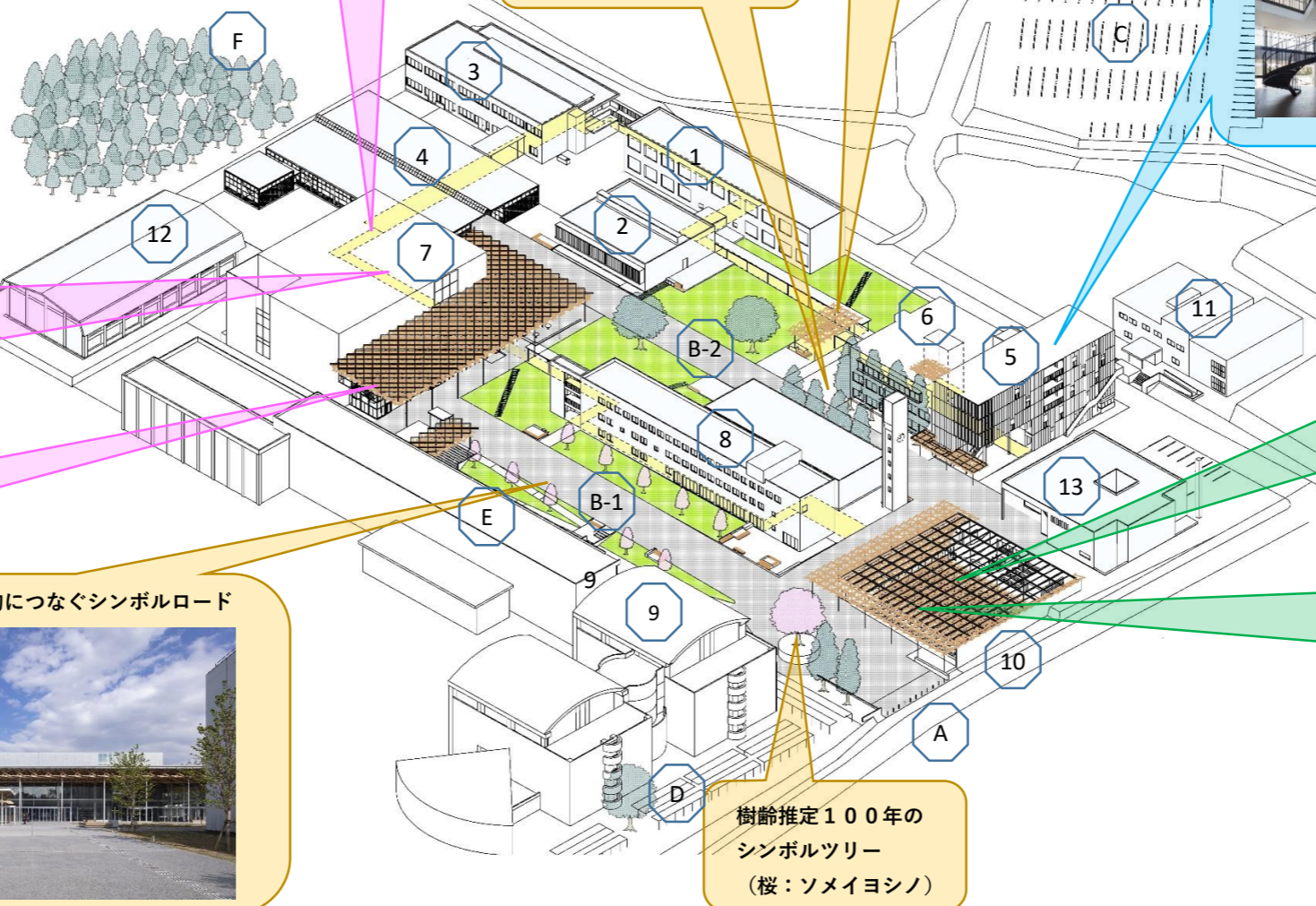
- 主な整備内容
  - ・デザイン実習室 美術科デザイン専攻の3つのコース（ビジュアル、メディア、プロダクト）に適した実習環境を整備
  - ・印刷実習室 シルクスクリーン印刷等の実習スペースを整備
  - ・その他 写真実習室、講義室等を整備
- 地域材使用量 4, 13m



研究室をつなぐ吹き抜け空間



旧キャンパスの面影を残すメタセコイヤの並木道



大学生と芸術緑丘高校生がともに利用する

“レストラン”は開放的な木の空間（地域住民も利用可能）



音楽ホール等と外部をつなぐ大屋根



大学と高校を一体的につなぐシンボルロード



自主学習が出来るラーニングcommons



木のぬくもりと開放感を感じる読書スペース



## 〔図書館〕

- 主な整備内容
  - ・図書館は大学の情報拠点としての図書館機能に加えて、グループ学習室やラーニングcommons(自主学習スペース)を整備（芸術緑丘高校生や地域住民も利用可能）
- 地域材使用量 109m



図書館 外観



図書館 内部書架

## 凡例

- |                  |                  |               |
|------------------|------------------|---------------|
| A 正門             | 1 美術棟(改修)        | 9 人文棟         |
| A-2 南門           | 2 交流ギャラリー(改修、2期) | 10 図書館(新築)    |
| B-1 シンボルロード      | 3 美術棟(増築、2期)     | 11 クラブハウス(改修) |
| B-2 キャンパスモール(2期) | 4 工房(改修、2期)      | 12 体育館(改修、2期) |
| C 駐車場            | 5 芸術デザイン棟(増築)    | 13 事務棟(改修、2期) |
| D 駐輪場            | 6 芸術デザイン棟(改修)    |               |
| E 県立芸術緑丘高校       | 7 音楽ホール棟(新築)     |               |
| F 大臣塚古墳          | 8 音楽棟(改修、2期)     |               |



# 大分県立芸術文化短期大学



- 図書館 1, 036.47㎡ RC+一部木造及び鉄骨造 平屋  
〔工期〕平成29年8月～平成30年7月
- 音楽ホール棟 3, 758.16㎡ RC+鉄骨造 3階  
〔工期〕平成29年8月～平成31年2月
- 芸術デザイン棟 3, 401.68㎡ (増築棟)鉄骨造 5階、(改修棟)RC造 3階  
〔工期〕平成28年12月～平成29年11月
- 設計 デネフェス・オンデザイン設計共同体
- 施工 佐伯・柴田特定建設工事共同企業体